

研究・調査報告書

報告書番号	担当
397	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
<p>Prevalence and factors associated with significant liver fibrosis assessed by transient elastometry in HIV/hepatitis C virus-coinfected patients. HIV と C 型肝炎ウイルスに複合感染した症例のエラストメータにて測定した有意肝線維化の頻度とそのリスクファクター</p>	
執筆者	
Pineda JA, González J, Ortega E, Tural C, Macías J, Griffo L, Burgos A; Grafihco Study Team.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Viral Hepat. 2010 Oct;17(10):714-9.	
キーワード	
エラストメータ、HIV/C 型肝炎ウイルス複合感染、肝線維化、肝硬変	
要 旨	
<p>目的： 肝生検に比べてエラストメータによる検査は C 型肝炎ウイルス感染患者における肝線維化の頻度とリスクファクターをより正確に評価できる。本研究の目的は HIV と C 型肝炎ウイルスに複合感染した症例の大集団を対象として、多施設横断研究にて有意な肝線維化の頻度とそのリスクファクターを検討することにある。</p> <p>方法： 対象集団にはエラストメータによる肝臓硬化度測定を含めた検査を行い非侵襲的指標を収集した。有意線維化(肝臓硬化度 ≥ 9 kPa)に関連する因子を検討した。</p> <p>結果： 1,310 症例が複合感染の診断基準を満たし、その内 526 症例(40%)が肝臓硬化度 ≥ 9 kPa であり、316 症例(24%)が肝硬変であった(肝臓硬化度 ≥ 14 kPa)。有意線維化の独立寄与因子は年齢[調整オッズ比 1.04, 95%信頼区間(1.01-1.07), $P=0.002$]、毎日飲酒量 > 50 g/日 [1.58 (1.10-2.27), 0.013]、C 型肝炎ウイルス感染期間 [1.03 (1.00-1.06), 0.023]であった。CD4 細胞数 $< 200/\text{mm}^3$ [1.67 (0.99-2.81), 0.053]、と C 型肝炎ウイルス遺伝子型 4 [0.66 (0.42-1.02), 0.066]は肝臓硬化度 ≥ 9 kPa と関連する傾向があった。</p> <p>結論： エラストメータを用いた本研究での HIV/C 型肝炎ウイルス複合感染症例の肝硬変合併率はこれまでの肝生検による報告より高い。加齢、飲酒、CD4 細胞数低下は有意線維化と関連していた。CD4 細胞数低下と有意線維化の関連はレトロウイルスに対する治療をより早期に開始すべきであることを支持する。</p>	